

『類雑集』表現考（一）

— 敬語表現の用例から —

北 林 茉莉代

一、はじめに

『類雑集』は、近世成立と推定される唱導資料である。版本は二種あり、「慶安四^{卯辛}曆十月吉辰 石黒庄太夫板本」の刊記を持つもの（以下、「慶安四年版」とする）と、後印版と見られる「明曆三^{酉丁}年三月吉辰 寺町通圓福寺前町 秋田屋平左衛門板行」の刊記を持つもの（以下、「明曆三年版」とする）がある。どちらも全十巻および総目録一冊の十一冊からなる。

『類雑集』を主題にした研究は数少ないが、嚆矢となるのは牧野和夫氏の研究である。牧野氏は、版本二種および牧野氏蔵の写本一種（巻九・十）の書誌事項、所蔵者、構成などを紹介したうえで、出典について言及し、日蓮宗との関わりを指摘した。^①清水有聖氏は、『言泉集』との詳細な比較検討の結果、『類雑集』編者が閲覧していた『言泉集』は叡山文庫本系統^②であると特定している。ほかに、拙稿では、引用書『塵荊鈔』は文明十四年（一四八二）以降の成立と考えられていることから『類雑集』はそれ以降の成立であることや、『下学集』十種と比較した結果、一つの漢字に二つの読みが付された単語が一致するのは亀田家本であることを明らかにした。^③また、『類雑集』巻八「苦患」

第六話の漢詩と和歌を手がかりに、『宝物集』の第二種七卷本系統のうち久遠寺本に連なる一本を参照していたこと^④を推定した。さらに、『類雑集』所載の全ての和歌を検証し、略本系『沙石集』や『金葉和歌集』再撰二度本系統のうち精選本系および中間本系に類する本が使用されたであろうこと、日蓮著作『法華初心成佛抄』のうち朝師本を参照していることを指摘した^⑤。その他の先行研究には、出典との校異を取った翻刻紹介^⑥や、他作品との関連で『類雑集』に触れた論考^⑦はあるが、『類雑集』の基礎研究は途上にあるといえる。

本稿は、『類雑集』の基礎研究として、表現機構を分析する研究の一部である。今回は『類雑集』の敬語表現を取りあげ、その様態を詳らかにする。本研究の特色は、第一に『類雑集』における敬語表現を全て掲載する点、第二に『類雑集』独自の敬語表現から『類雑集』作者あるいは編者（以下、単に「作者」とする）の敬意の対象を明らかにする点にある。本稿では、大正大学図書館蔵『類雑集』慶安四年版を底本とし、引用は私に翻刻した^⑧。引用の際は原文表記に従ったが、一部の異体字は正字で代用した。字数の制限上、敬語の用例紹介に大部分を割いた。本稿で指摘できなかった敬語表現以外の特徵や、引用文献・引用態度などの報告は、別稿に譲りたい。

二、『類雑集』における敬語の用例

本項では、『類雑集』における敬語表現を抽出する。しかし、漢字単体では、敬語と確定できない場合が多い。例えば、「言」には「イハク」「ノタマハク」「マウサク」など多様な読みがあり、「仏」に対しては慣用的に「ノタマハク」と読む。しかし、この読みは読者の解釈であり、ここから作者の意識をうかがうことはできない。そのため、「言」^{ノミ}（宣ハク）、「知玉」^玉（給フ）、「見上」^上（奉ル）、「白言」^言（申シテ申サク）など、訓点や振り仮名によって確実に敬語表現と特定できるもののみ調査対象とした。また、「見マツ」のように、送り仮名の一部を付して「奉ル」と読ませる捨て仮名的用

法も対象とした。可能な限り用例を蒐集したが、その送り仮名に続く読みが二つ以上あり、敬語か否か確定しえないものは扱わなかった。また、「有^マ」のように「マシマス」(尊敬語)もしくは「アリマス」(丁寧語)と読めるものは、いずれも敬語であるため用例として採取し、敬語の種類は文脈で判断した。漢字の読みは、『角川大辞源』(角川書店、一九九二年二月初版、一九九二年三月再版)によって確認した。

以下、巻毎に敬語表現を抜き出し、丁数、用例、敬語の種類、敬意の対象の順に整理した。用例は「」内に引用した。謙讓語の場合は動作主を示すよう工夫したため、「……」と中略する場合がある。「」とあるのは、割注の行の区切りを表すものである。連続した文章で敬意の対象が同一であれば、まとめて引用した。同一の文章であっても敬意の対象が異なる場合はそれぞれ立項した。一部の例外として「奏玉フ」など二方面敬語は敬意の種類と対象を続けて示した。敬語の種類は、「尊敬語」は㊦、「謙讓語」は㊧、「丁寧語」は㊨のように、頭文字の略称で示した。敬意の対象は、一般名詞を優先的に記したが、前後の文脈から固有名詞が特定できる場合には記載するよう努めた。対象が不明な場合は空白とした。なお、釈尊を指す言葉に「仏」、「如来」、「世尊」、過去世における「王」などがあるため、釈尊を指す用例はすべて「釈尊」と統一表記した。接頭語や敬称も敬語として採取した。書物の場合、固有名詞であっても「御」が敬意の手がかりとなることから採っている。また、著作者を敬って「書名＋動詞＋玉ヘリ」とする例も見受けられるため、「書物」と書いたうえで「↓」以下に人名を記した。

さらに、『類雑集』独自の敬語と、引用書の敬語がそのまま引かれた敬語とを区別した。出典に敬語が使用されていないと確定した場合や、『類雑集』において付されたと考えられる題名や一字下げの注記における敬語は、太字に示した。ただし、『類雑集』は出典未詳の引書が多く、また、本地垂迹思想や偈文という敬意の対象が曖昧なものもある。今後の調査によって数値が変わるであろうことを予め断っておく。

卷一

3 ウ 「佛説」^{玉ヘハ}「三十七品」^ヲ ④ 積尊

25 ウ 「臣……白」^レ「王言」^ヲ ④ 謙王

「佛住」^{玉フ}「王舍城」 ④ 尊 積尊

27 才 「御抄云」 ④ 尊 書物（↓日蓮）

45 才 「跏趺ノ唱」^{玉フ}「三寶ノ名」^ヲ ④ 尊 智顓

「端坐ノ入」^{玉ラ}「滅」 ④ 尊 智顓

46 才 「佛食」^ニ人ノ涕唾「呵」^{シ玉フ}事 ④ 尊 積尊

46 ウ 「阿難白」^レ佛 ④ 謙 積尊

「救護」^{玉ヘ} ④ 尊 積尊

47 ウ 「白」^レ佛 ④ 謙 積尊

48 才 「開目抄引」^{玉ヘリ} ④ 尊 書物（↓日蓮）

50 才 「佛記」^{シ玉ハク} ④ 尊 積尊

58 才 「御者ノ白」^{レク}王 ④ 謙 王（帝 積）

卷二

1 才 「悉達太子……得」^{玉ヘル}「三菩提」^ヲ ④ 尊 積尊

「師説」^{玉ヘル}「何法」^{ヲカ} ④ 尊 積尊

2 才 「佛問」^{マフ}「羅云」^ニ ④ 尊 積尊

「佛問」^{マフ}「羅云」 ④ 尊 積尊

「佛ハ不^ス以^テ無^ク受^レ」^{玉ヘ}請[」] ④ 尊 積 尊

「今不^レハ受^レマハ請^ヲ」 ④ 尊 積 尊

「佛ノ所^ヲレ 訶^マハル」 ④ 尊 積 尊

「王白^スレ 仏」 ④ 謙 積 尊

3才 「沙弥持^ニテ 和上ノ三衣^ニ奉^ル佛^ニ」 ④ 謙 積 尊

3ウ 「舍利弗ハ滅度^ヲ」 ④ 尊 舍利 弗

「迦葉等ハ……得^ニ 縁覺^ニ」 ④ 尊 迦 葉

4ウ 「阿難ノ言^ク佛記^シノ我^ニ」 ④ 尊 積 尊

5才 「阿難……白^シ佛^ニ言^ク」 ④ 謙 積 尊

5ウ 「白^シ佛^ニ」 ④ 謙 積 尊

7才 「佛知^ニシメシテ 難陀受戒ノ時至^{レリ}」 ④ 尊 積 尊

「照^レ 玉フ 宅^ヲ」 ④ 尊 積 尊

11才 「佛見^テ問^フ之^ヲ」 ④ 尊 積 尊

「佛……令^レ 玉フ 誦^ニ」 ④ 尊 積 尊

11ウ 「佛ハ常^ニ説^ニ 玉フ 布施ノ獲報無數^{ナルコトヲ}」 ④ 尊 積 尊

12才 「還^テ至^ニ 兄ノ所^ニ具^ニ白^シ其情^ヲ」 ④ 謙 目 連

13才 「佛初^メ成道^{マフテ}」 ④ 尊 積 尊

「以下初^メ出家^{ゾル}於^ニ仙ノ所^ニ習^ニ 玉ヘルヲ 世間ノ定^ヲ」 ④ 尊 積 尊

16ウ 「佛種々^ニ呵^ニ責^シ 玉フ 飲酒ノ過失^ヲ」 ④ 尊 積 尊

「佛初^テ出家^シ 玉フ 夜^ル」 ④ 尊 積 尊

「初^テ成道^シ玉^フ夜^ル」^① 尊 积 尊

17オ 「女白^レノ王^ニ」^① 謙 王 (浄飯王)

19ウ 「佛常^ニ説^レマハク^ク法^ヲ」^① 尊 积 尊

「佛……下^{タマヒス}閻浮提^ニ」^① 尊 积 尊

「座ノ中^ニ有^レマス 佛^ニ」^① 尊 积 尊

20オ 「見^ニツリ如来^ニ」^① 謙

「王見^{マツリ}佛^ヲ」^① 謙 积 尊

「札^{マツル}レ佛^ヲ」^① 謙 积 尊

20ウ 「舍利弗白^レノ佛^ニ」^① 謙 积 尊

21オ 「舍利弗……白^レノ佛^ニ」^① 謙 积 尊

21ウ 「舍利弗……白^レノ佛^ニ」^① 謙 积 尊

22ウ 「比丘……白^レノ佛^ニ」^① 謙 积 尊

33ウ 「白^レ王^ニ」^① 謙 王

「白^レ王^ニ」^① 謙 王

34ウ 「弟子白^ニノ龍樹^ニ」^① 謙 龍 樹

37ウ 「慈氏相好言莫^ル能宣^ル演^シ説^シ玉^フ妙法^ニ」^① 尊 弥 勒

40ウ 「佛ノ御出世^ニ」^① 尊 积 尊

「若^シ為^ニ上^ニ地^ノ人^ノ説^玉ハ^ハ」^① 尊 积 尊

「現^玉フ此^ニ三^ニ界^ニ」^① 尊 积 尊

「佛何^ツ不^下ノ自^住ニ……説^中玉^ハ此^ニ圓頓^上」^① 尊 积 尊

- 41才「現^{玉ハシ}三^ニ界^ニ」[◎]積尊
- 45才「積尊ハ摩耶ノ御子也」[◎]積尊
- 45ウ「悉多ハ生^{玉ヲ}彼ノ浄飯王宮^ニ」[◎]積尊
- 48ウ「大覺世尊ハ……猶^{玉ヘリ}渡^ニ」[◎]積尊
- 「無明ノ根本猶傾^{玉ヘリ}」[◎]積尊
- 49ウ「成^{ヘリ}無上道」[◎]積尊
- 50才「佛從^リ金棺^ニ爲現^{玉ヲ}双足^ニ」[◎]積尊
- 「佛……涅槃^{シ玉リ}」[◎]積尊
- 50ウ「涅槃^{シ玉ヘリ}」[◎]積尊
- 「受^レ教^ヲ具^ニ往^テ傳白^ス」[◎]積尊
- 「人民自當^ニ供養^{マツル}」[◎]積尊
- 51才「供養^{シ上ル}」[◎]積尊
- 53才「大臣白^{レク}王^ニ」[◎]王（優填王）
- 「供養^{ヘト}」[◎]積尊
- 53ウ「大臣白^{レク}王^ニ」[◎]王（優填王）
- 57ウ「応持菩薩……不^レ見^{上ラ}積尊之頂^ニ」[◎]積尊
- 「不^レ知^ニ佛身ノ遠近幾^{何ト云}」[◎]積尊
- 「佛ノ御声事」[◎]積尊
- 58才「彼ノ菩薩白^レ佛^ニ」[◎]積尊
- 58ウ「白^レ佛言^ヲ目連^ニ」[◎]積尊

「愍念^{玉ヘ}」⑤^尊积尊

「願^ハ顯^{玉ヘ}」其^ノ國土^ニ」⑤^尊积尊

「阿難白^レ佛」⑤^謙积尊

61ウ 「白^ニス海師^ニ」⑤^謙海師

「佛度^{マフニ}」⑤^尊积尊

「白^レ佛^ニ」⑤^謙积尊

63才 「有^ニ智臣^ニ」白^レ王^ニ」⑤^謙王（優填王）

「白^テ佛^ニ」⑤^謙积尊

66ウ 「佛相好具^{玉フ}」故事[」]⑤^尊积尊

67才 「佛斷^{玉フ}」衆生^ノ吾我^{」ヲ}」⑤^尊积尊

「自嚴^{玉ヘル}」其身^ニ」⑤^尊积尊

「佛身相不^ヲレハ具^{シ玉ハ}」⑤^尊积尊

「相好嚴^{玉ヘリ}」其身^ニ」⑤^尊积尊

「婦白^レノ壻^ニ」⑤^謙婿

「白^レ壻[」]⑤^謙婿

卷三

6ウ 「一生ノ間^ニ可^レ奉^レ讀^ニ此ノ經^{」ヲ}」⑤^謙書物（↓积尊）

「速成就佛身^ト授^{玉ヘリ}」⑤^尊僧

「倫通^ヲ返^{シ玉フ}」娑婆^{」ニ}」⑤^尊閻魔

- 8才「俱^ニ率^ニ死^テ同^ク見^{マミユ}」^謙閻魔王
- 8ウ「傳教大師御誕生ノ時左ノ御手^ニ握^リ御經^ヲ」^尊最澄
- 9ウ「天子御即位ノ時」^尊聖德太子
- 「聖德太子法華經^ニ加^ニ玉フ文字^ヲ事」^尊聖德太子
- 10才「法師大^ニ奇^{ミテ}合掌禮拜^シ玉フ」^尊聖德太子
- 「此經ハ卅六歳ノ御時青龍ノ車^ニ乘^リ迎^ヘ」^尊聖德太子
- 12才「勇猛比丘白^レ佛^ニ」^謙釈尊
- 12ウ「佛知^ニメスカ衆生ノ諸根性欲不顛倒^ヲ」^尊釈尊
- 14ウ「佛聽^ニシ玉フ比丘^ニ學^ニ外論^ニ」^尊釈尊
- 15ウ「大師親證^{ミツカ}ノ位在^ニマスカ初依^ニ不^レ應^ニ錯^テ用^{玉フ}」^尊大師（一般名詞）
- 16ウ「佛說^ニ玉フ佛法ノ相^ヲ」^尊釈尊
- 「三世ノ諸佛ハ從^リ般若ハラウ生^{玉ト}」^尊諸仏
- 19ウ「迦葉白^レ佛^ニ」^謙釈尊
- 「迦葉白^レ佛^ニ」^謙釈尊
- 20才「迦葉白^レ佛^ニ」^謙釈尊
- 21才「如來付^レ之^{玉ヘ}」^尊如來
- 21ウ「諸々ノ比丘白^レ佛^ニ」^謙釈尊
- 33才「大師事」^尊大師（一般名詞）
- 「故^ニ号^ニ大師^ト」^尊大師（一般名詞）
- 「蒙^リ勅^ヲ賜^{ハル}号^ヲ者^{ナリ}」^謙天皇

「三惠大師」(尊)雲顯

「淨光大師」(尊)僧徹

「法智大師」(尊)知礼

「青蓮大師」(尊)重謙

40ウ「金色女白_ニ文殊_{一ニ}」(謙)文殊

「聽_{シ玉ヘ}我_ニ出家_{一ヲ}」(尊)

47才「長_ニ跪_ソ佛前_ニ……稽首_ソ頭面_ニ礼_{シ上ル}」(尊)釈尊

49ウ「佛言_ノ」(尊)釈尊

50ウ「五比丘白_レ佛_ニ」(謙)釈尊

51ウ「佛在_ニ祇恒_{一ニ}」(尊)釈尊

52才「佛在_ス世_ニ時_ニ」(尊)釈尊

56才「国王……白_レ佛_ニ」(謙)釈尊

56ウ「垂_ニ示_{シ玉ヘ}法要_{一ヲ}」(尊)釈尊

63ウ「有_ニ龍王_一而白_ノ世尊_ニ」(謙)釈尊

64才「俱_ニ白_レ佛_ニ」(謙)釈尊

65才「殺_メ取_レ皮_ヲ以上_レ王_」(謙)王

卷四

5才「菜_ヲ摘_ミ高岩_ヲ越_{玉フ}時_ハ昔_ノ御倉登_ヲ思_シ食_シ出_テ埋木_ヲ踏_{玉ウ}時_ハ古_ノ寶花_ノ机御足_ヲ承_{シヨヲ}思食_シ出_テ散敷木葉_ノ上_ヲ通_{玉フ}

筵_ヲ道道敷設_ケ紫_ノ絹_ノ上_ヲ歩給_ニ鳥獸_ノ聲_ヲ聞_{テハ}奏時_{云者}時奏_{ルニ}準_ヘサテ谷_ニ下_リ水汲木皮_ヲハキテ網_レ之御首_{ミカシニ}戴_キ嶮_キ

岩根ツ、ヲヲリナル路ヲ行^{玉ニ}コホレカ、ル水ヲ御覽^{メハ}王ノ冠ノ瓔珞ノ如^ニ思食[」]⑧^尊積尊

5ウ「釋尊往昔^ニ賈^レ身得^ニ玉ヲ^一個[」]事[」]⑧^尊積尊

6ウ「諸臣白[」]曰[」]⑧^尊王

7オ「汝可^ニ縛^{ハテ}進^{マツル}」⑧^尊王（新王）

7ウ「皈^ニ命^{マツル}十方ノ佛[」]ヲ[」]⑧^尊諸仏

「表^ニ知^{玉ヘ}我心淨^ク無^ニレ[」]己[」]⑧^尊諸仏

9オ「釋尊往昔^ト鬼^ト成^ニ玉ヲ^一捨身供養[」]事[」]⑧^尊積尊

10オ「以^レ身奏[」]上道人[」]⑧^尊燃燈仏

「可^レ給^ニ一日ノ糧[」]⑧^尊燃燈仏

11ウ「是^ノ故^ニ說^ニ玉ヲ^一敬^レフヲ[」]師[」]如[」]佛[」]⑧^尊積尊

13ウ「不^レ可^レ玉ヲ[」]⑧^尊草繁比丘

「其國大王彼野^ニ狩^シ玉ヒ[」]時[」]⑧^尊王

15オ「解脫聖人ノ道心ノ事[」]⑧^尊貞慶

「天下ノ御皈依[」]⑧^尊貞慶

「天下御皈依^ニ」⑧^尊貞慶

「一首ノ歌ヲ書^テ遁世^シ玉フ[」]⑧^尊貞慶

24ウ「是^ノ王大仁慈^{アリ}一切宜^シニ[」]救護[」]⑧^尊王

25ウ「釋言^ク不^レシ[」]須[」]我[」]也[」]⑧^尊帝積

26オ「慫^ニ玉ヘ[」]我貧窮[」]ヲ[」]⑧^尊王

26ウ「若[」]上[」]大王[」]⑧^尊王

29 ウ 「佛神歡喜ノ守_{玉ヘ}」 ⑤尊 仏神

29 ウ 「諸佛來リ坐_{玉フ}」 ⑤尊 諸仏

31 オ 「佛初_{玉ヒトシキ} 出_レ世」 ⑤尊 釈尊

33 オ 「身延山御抄_{ニアリ}」 ⑤尊 書物 (↓日蓮)

40 オ 「阿難白_レ佛_ニ」 ⑤謙 釈尊

42 オ 「夫人白_レ王」 ⑤謙 王 (阿育王)

46 オ 「婆羅門……白_レ佛_ニ」 ⑤謙 釈尊

47 オ 「阿難……白_レ佛_ニ」 ⑤謙 釈尊

49 ウ 「本門弘經抄分別品ノ書_ニ出_レ之_{玉ヘリ}」 ⑤尊 書物 (↓日隆)

50 オ 「本門弘經抄分別品ノ書_ニ出_レ之_{玉ヘリ}」 ⑤尊 書物 (↓日隆)

51 オ 「乃_チ令_メ遺劫_ニ」 ⑤尊 釈尊

「阿難白_レ佛_ニ」 ⑤謙 釈尊

56 オ 「即白_レ佛_ノ」 ⑤謙 釈尊

59 ウ 「白_ニ國王_ニ」 ⑤謙 王

「聽_ニ我徒衆與共拘_シ術_ヲ」 ⑤尊

61 オ 「即往_テ白_レ王_ニ」 ⑤謙 王

卷五

3 ウ 「佛稱_ニ讚_シ」 ⑤尊 釈尊

7 オ 「佛……三月安居_{玉フ}」 ⑤尊 釈尊

7ウ「以此偈」白レ母」^謙摩耶夫人

「并ニ受^{玉ヘ}真淨法」^ヲ」^尊

9ウ「録外御抄尾張刑部右衛門女房御抄委判玉ヘリ」^尊書物（↓日蓮）

12才「難陀白レ佛」^謙釈尊

18ウ「黒者ハ奉^{ッラン}母」^尊母

19ウ「母^{マシマサハ}在」^尊母

21才「二人ノ子ヲ助^{ケ玉ヘト}云」^尊王

「母ノ白^ス所尤ナレトモ」^謙王

「母白ク」^謙王

「弟誅^ツ兄ヲ助^ケ玉ヘシト」^尊王

「王ノ宣^{ハク}」^尊王

「母白ク」^謙王

「父終^シ時^キ我子ノ如クハクハムヘシト申^セシカハ……ト白^ス」^謙王

「二人共ニ臣下ニ召^シ仕^{ハレ}」^尊王

23才「孔子聞給^テ」^尊孔子

24才「奉^ス母」^謙母

25才「遇^テ王ノ出^テ、猶^ニヘルニ」^尊王

28才「男答^テ申^ク」^謙王

29才「無元正天皇ノ御時」^尊天皇

「時^ニ御門此事ヲ聞召^ソ」^尊天皇

「御覽シケリ」(尊)天皇

「感セサセ給テ」(尊)天皇

30ウ 「録外尾張刑部右衛門女房御抄ニ引言泉ニ在之」(尊)書物(↓日蓮)

33ウ 「帝王ハ……ニクミ^玉」(尊)王

37オ 「白^レ母」(謙)母

39オ 「夫人大王ニ告^ケテノ玉ハク」(尊)夫人

「大王^ク軍ヲ退^ソケ玉ヘシ」(尊)大王

41ウ 「報^ニ師^ノ恩^一者奉^レ報^ニ十方三世ノ諸佛菩薩之恩^ニ」(尊)

43オ 「行基菩薩孝養報恩給^{ケル}ニハカクソ讀給^{ケル}寶物集アリ」(尊)行基

「モモサカヤヤソサカソヘテタマヒテシチフサノムクヒケフソワカヌル」(尊)母

44ウ 「伊弉諾伊弉冉陰陽和合^ソ生^ニニ女三男^一事」(尊)神

45オ 「二神是^ヲ海邊ニ流^玉ヘリ」(尊)神(伊弉諾・伊弉冉)

「サレハ二神イカハカリ哀レト思召ラム」(尊)神(伊弉諾・伊弉冉)

「彼蛭子天照太神ノ御前ニ」(尊)神(天照)

「参リ玉ヒシ時」(謙)神(天照)(尊)神(蛭子)

「太神ノ仰ニハ」(尊)神(天照)

45ウ 「被仰間」(尊)神(天照)

「三男ニ當リ玉フ故ニ」(尊)神(蛭子)

「天照大神伊勢奉^レ崇時代事」(謙)神(天照)

「垂仁天皇御宇」(尊)垂仁天皇

「鎮坐給也」^⑤垂仁天皇

46才 「譽田ノ天皇ノ御靈也」^⑤応神天皇

「欽明天皇ノ御宇」^⑤欽明天皇

「此天皇ノ御事ハ胎内ニ坐シ玉ヒシヨリ」^⑤欽明天皇

「神異ニマシクキ住吉明神御教ヘニ依テ」^⑤神（住吉明神）

「御母ノ神功皇后新羅百濟高麗等ノ國ヲ平ケ給キ」^⑤皇后

「胎内ノ天皇ノ治給ヘキ國也」^⑤応神天皇

「勅給シヨリ」^⑤天皇

「八幡トハ申也」^⑤謙神

「譽田ハ往昔御号」^⑤天皇

「八幡ハ和光ノ御稱也此八幡ノ御稱号モ」^⑤神

「文武天皇ノ御子開成皇子……誓願シ給時」^⑤皇子

46ウ 「八幡大菩薩男山ニ遷^{玉ラ}時代ハ」^⑤神（八幡）

「清和天皇ノ御宇也」^⑤清和天皇

「法体御装束」^⑤神（八幡）

「女体御衣」^⑤神（八幡）

「八幡法体御尊形事」^⑤神（八幡）

47才 「聖武天皇……巡礼給即此寺出家得度ヘキ由託シ給テ」^⑤聖武天皇

「敦實親王寬平御子」^⑤皇子

「毎日御供」^⑤

「僧形御躰箸令立給」^①尊神（八幡）

「仍僧形安置申^{スト}也」^②謙神（八幡）

「八幡大菩薩本地釋迦^{ニテ}在^{スト}云事」^③尊

「八幡ノ御誕生……御崩御」^④謙神

47ウ 「佛神顯^テ利益^シ玉フ」^⑤尊仏神

「萬ノ神ト顯レ玉フヲ言也」^⑥尊神

48才 「傳教御皈朝」^⑦尊最澄

49才 「天照太神御託宣云」^⑧尊神（天照）

49ウ 「八幡大菩薩御託宣云」^⑨尊神（八幡）

50才 「七歳^ニ託宣^シ玉フ也」^⑩尊神（八幡）

「小兒託宣^シ玉フ」^⑪尊神（八幡）

「平城天皇御宇」^⑫尊天皇

50ウ 「傳教大師奉爲八幡大菩薩」^⑬尊神

「太神御託宣」^⑭尊神（天照）

「歷^ニ玉ヘリ 歳年^ニ」^⑮尊神（天照）

「奏^ニ上^ニ和上^ニ」^⑯尊師

「垂^ニ玉ヘト 納受^ニ」^⑰尊神

51才 「高麗大菩薩御託宣」^⑱尊神

51ウ 「山王御託宣」^⑲尊神

「同日吉御託宣」^⑳尊神

52才「賀茂明神御託宣」^{尊神}

「一條院御宇」^{尊天皇}

「念時示^{モラ}也」^{尊神}（賀茂明神）

「傳教大師賀茂社ニ參詣ノ誦^ユ法華經^ヲ時」^{尊最澄}

「神喜^テ自甲冑^ヲ布施^シ玉^ヲ也」^{尊神}（賀茂明神）

52ウ「御記」^{尊書名}（↓諏訪明神）

53才「稲荷明神御託宣」^{尊神}（稲荷明神）

53ウ「北野天神御託宣」^{尊神}（北野天神）

54才「神八本地佛ニテ在セトモ」^尊

「衆生ノ愛欲煩惱^ヲ吸^{玉カ}即三熱ノ毒蛇^ト頭^シ玉^ヲ也」^{尊神}

「春日明神御託宣」^{尊神}（春日明神）

54ウ「八幡御哥」^{尊神}（八幡）

「和泉國ニイマス蟻通明神ノ歌也」^{尊神}（蟻通明神）

「昔御門」^{尊王}

55才「並ヒノ國ノ御門」^{尊王}

「彼國ノ御門」^{尊王}

55ウ「御門此事ヲ恠シミテ尋給^ニ」^{尊王}

56才「神ノ御誓」^{尊神}（筑摩明神）

56ウ「天照太神御託宣」^{尊神}（天照）

「春日明神御歌」^{尊神}（春日明神）

57才「能回……マイリヨメル」〔謙神〕

57ウ「**稲荷明神御歌**」〔尊神〕**（稲荷明神）**

「此事コトハリ給へ」〔尊神〕（稲荷明神）

「祈リ申ケル法師」〔謙神〕

58才「社ノ中ヨリ云出シ給ケル歌」〔尊神〕（稲荷明神）

「此歌祇園大明神御告」〔尊神〕（祇園明神）

62才「賢白ノ曰ク」〔尊神〕

65才「佛語」〔玉ハク〕阿難」〔尊神〕

65ウ「白レ佛言サク」〔謙神〕

66才「即還」〔玉フ〕其ノ子」〔尊神〕

「長跪白レ佛」〔謙神〕

66ウ「金剛薩埵白」〔ニ〕世尊」〔謙神〕

71才「神明利生」〔ラ〕佛陀」〔譲リ玉フ〕事」〔尊神〕

71ウ「天照太神倭姫託」〔ヤヒヒメニ〕メノ玉ハク」〔尊神〕

72才「垂仁天皇ノ御宇」〔尊神〕

「倭姫……クタリ玉ヘリ」〔尊神〕

「**天照太神御歌**」〔尊神〕**（天照）**

卷六

2才「世尊……知」〔メセリ〕諸衆生ノ上中下根」〔ヲ〕〔尊神〕

- 12才「佛ハ無^シ食ノ想^ヒ久ク離^{タマハ}八風^ヲ不^レ爲^ニ損益^ニ」^⑤積尊
- 13才「佛告^ニ文殊[」]」^⑤積尊
- 14才「録外六味ノ御抄ニ被^レ遊也」^⑤書物(↓目蓮)
- 27才「廻向ト者如^ニ少ノ物^ヲ上^レ王[」]」^⑤謙王
- 35才「若佛ノ答^ニ諸佛[」]」^⑤積尊
- 42才「唯佛能度^{玉フ}」^⑤積尊
- 45才「安然和尚云」^⑤安然
- 48才「此釋子申^レ孝報^レ恩救^レ苦」^⑤謙母
- 52才「有大聖人ニ生^ニ於西方[」]」^⑤積尊
- 52才「52ウ「天人於^ニ窓中[」]又手ノ白^ノ言^ク」^⑤積尊
- 53才「西方有^ニ大聖人[」]」^⑤積尊
- 53ウ「炎帝臣也故黃帝ヲ打^テ炎帝^ヲ位^ニ奉^レ」^⑤謙王
「依^レ之黃帝平和術成^{玉フニ}感^ニ天告[」]」^⑤故其ノ弊身^{ヲハ}破^テ五節ノ備^ト成給成[」]^⑤王
- 54才「周靈王腹惡^ク御座^{ケルニ}」^⑤王
- 「智臣常^ニ以^ニ草餅[」]奉^レ進時[」]」^⑤謙王
- 「御心吉^ク成給^フ故御心^ヲ和^ル藥也[」]」^⑤王
- 54ウ「昔有^ニ國王[」]一臣^ヲ流罪^{玉ヲ}」^⑤王
- 「有^ニ智臣[」]申^{サク}」^⑤王
- 55才「此中^ニ一足ノ王子瘡病鬼^ト成給^メ」^⑤王子(鬼)
- 「素麵^ヲ彼^ニマツレハ鬼病^ヲヤマサル也[」]」^⑤王子(鬼)

55 ウ「昔魏文帝生給シ時紫雲如ニ車輪ニ懸ル殿上ニ瑞相不思議アリテ遅ク生レ御年七歳ニテ御即位治ニ天下ニ給相者云壽命不レ

過ニ二十五ニ帝聞ニ食シ之ニ十五漸近付給テ歎玉フ時」^⑤尊王

「昔周ノ穆王八足ノ駒ニ乗、四荒八極馳給フ時」^⑥尊王

「靈山ニ佛説玉フ法華ニ」^⑦尊釈尊

56 才「砌ニ至給」^⑧尊王（穆王）

「寶ト次第傳授シ玉フ」^⑨尊王（穆王）

「秦始皇時愛ニ玉フ慈童ニ」^⑩尊王（始皇帝）

「万事不足ノ時キ妙法蓮華經ト常ニ可レト唱教玉ヘリ」^⑪尊王（始皇帝）

56 ウ「57 才」私云五節供事通師録外ノ抄ニ曾谷殿ヘ委、被遊也、可拜之五節ト者妙法等ノ五字也^⑫云^⑬尊書物（↓日蓮）

57 ウ「太子香ヲ焼花ヲ供シ日別ニ諦御覽アリ至ニリ同冬ニ一遍高覽シ畢」^⑭尊聖德太子

「太子奏シ云」^⑮謙天皇

「帝釋ノ王子十五日ハ自降玉フ」^⑯尊帝釈天の王子

「帝釋天王……衆生ノ善根ヲ知見シ御座故ニ每ニ此ノ六齋日ヲ禁メ給フ」^⑰尊帝釈天

58 才「帝釋天王欲界ノ頂ノ摩醯首羅天自在天日神月神北斗七星七曜九曜廿八宿天下ヲ廻玉フ」^⑱尊帝釈天

「冥途主秦廣王初江王宗帝王五官王閻魔王變成王泰山王平等王都市王五道轉輪王司命司祿堅牢地神地下ノ十二

冥衆等ノ三界六欲四禪八定天王天衆悉須臾ノ間ニ彼天正樹ノ下トニ會合シ坐ノ娑婆世界ノ善惡業ヲ御評定アリ」^⑲尊十王

58 ウ「天ノ冥官……琰魔王ニ奏聞ス」^⑳謙閻魔王

「二ノ札ヲ炎魔王ニ献ス」^㉑謙閻魔王

「炎魔王ヨリ帝釋天ニ献ス」^㉒謙帝釈天

「帝釋天大三界主大梵天王ニ献ス」^㉓謙大梵天王

「其時大梵天王ニ札ヲ御覽ノ金札ニハ寶印ト云御判ヲスヘテ」^⑧大梵天王

「帝釋御預リアリテ……善法堂ニ納メ置^{玉フ}」^⑨帝釈天

「鐵札^{ニハ}縛印ト云御判ヲスエテ炎魔大王御預リアリテ冥途ノ誦經院ニ納メ置^{玉フ}」^⑩閻魔王

59才「一切ノ諸佛三世ノ世尊及無數万億ノ菩薩等諸法ヲ演說シ於ニ衆生ニ與^{玉フ}樂時也」^⑪諸仏

59ウ「此八神……三覆八校シ^{玉フ}也」^⑫八神

「八神者……一年ニ二度大梵天ヘ奏^{玉フ}時」^⑬大梵天^⑭八神

卷七

4ウ「衆内ニ……六分之一ヲ以^{タテマツル}貢ニ田主ニ」^⑮田主

5才「余時菩薩ノ慈悲化ヲ作^{玉ヘリト}日月ト」^⑯菩薩

6ウ「私云處々ノ御抄ニ近須弥山ニ鳥金色ナル如ク持ニ法ノ華經者成ニ金色ノ佛ト云^モ」^⑰書物（↓日蓮）

9オ「此直河ヲ佛末^タ曾^{ニモ}説^{マハ}文」^⑱釈尊

9ウ「佛説^レ法」^⑲釈尊

10ウ「鹿至^ニ王ノ前ニ跪^テ白^レ王言ク」^⑳王

「王以^ニテ小吏ニ時ニ令^{玉フ}受^ケ於死ノ苦ニ」^㉑王

「有^{ニテ}一ノ母鹿ニ白^テ其ノ主ニ言ク」^㉒王

11才「即^チ至^ニ菩薩ノ王ノ所ニ具^ニ白^レ王言ク……白^ス」^㉓王

「以^レ更白^レ王ニ」^㉔王

16ウ「忉利天ノ衆味具足^{セラル}」^㉕忉利天の衆

18才「塵荊抄五云問曰國之數六十六^ニ定給」^㉖

18 ウ「六十六箇國分給……而表シ給男數ハ十九億九萬四千八人」^⑤

20 才「百濟國ノ日羅上人」^⑥日羅

30 才「牛頭栴檀芥子許^モ奉^レハ佛僧^ニ」^⑦謙僧

30 ウ「諸ノ醫師白大王」^⑧謙王

「長者問^レ王何故自來^{玉ヘル}」^⑨尊王

37 才「院有叡感^ニ而不移^ニ也」^⑩尊天皇

37 ウ「已上本門弘經抄妙音品下引^{玉ヘリ}」^⑪尊書物（↓日隆）

42 ウ「皇極天皇ノ御宇」^⑫尊天皇

43 才「圍碁ハ堯王ノ御子」^⑬尊王子

45 才「或人七歳ノ時帝位^ニツク天下大^ニ旱魃^ス皇是歎^{玉ヲ}」^⑭尊王（或人）

51 ウ「詣^ニ佛所^ニ白^ノ言^フ」^⑮謙釈尊

53 ウ「白^レ佛云^ニ」^⑯謙釈尊

55 才「白^レ佛^ニ言^フ」^⑰謙釈尊

55 ウ「迦葉菩薩白^レ佛^ニ言^フ」^⑱謙釈尊

56 才「白^レ佛言^フ」^⑲謙釈尊

卷八

6 才「阿難白^レ佛言^フ」^⑳謙釈尊

6 ウ「普廣菩薩白^レ佛言^フ」^㉑謙釈尊

8 ウ「白^レ王^ニ」^㉒謙王

9才「佛爲^ニ比丘^一ノ說^ニ玉ヲ^三死想ノ義^一」[◎]尊[◎]积[◎]尊

「有^ニ比丘^一白^レ佛」[◎]謙[◎]积[◎]尊

9ウ「有^ニ二人ノ長者^一來^ニテ佛處^一白^ニ世尊^一……又廻^リ來^ニ白^ク」[◎]謙[◎]积[◎]尊

10才「長者又白^ク」[◎]謙[◎]积[◎]尊

11才「諸佛常^ニ呵^ニ玉ヲ^三此身^一」[◎]尊[◎]諸[◎]仏

14ウ「八雲御抄第四^ニモ見タリ」[◎]尊[◎]書[◎]物

15才「八雲御抄第四云」[◎]尊[◎]書[◎]物

16ウ「頂^ニ禮^シ上^ル無上尊^一」[◎]謙[◎]积[◎]尊

18ウ「王至^ニ心^ニ聽^キ玉ヘ」[◎]尊[◎]王

21才「如^レ是^ニ我^レ聞^ク一時薄伽梵在^ニマヌ室羅伐城逝多林給孤獨園^一」[◎]尊[◎]积[◎]尊

23ウ「白^ニ閻羅王^一」[◎]謙[◎]閻[◎]魔[◎]大王

26才「阿難陀長跪^ノ白^レ佛^ニ言^ク」[◎]謙[◎]积[◎]尊

「唯^ハ願^ハ聽^ミ玉ヘ我^レニ擔^シンヲ伯父ノ棺^一」[◎]尊[◎]积[◎]尊

26ウ「白^レ佛^ニ言^ク……四王俱^ニ白^レ佛^ニ言^ク」[◎]謙[◎]积[◎]尊

48才「佛眠人ヲ呵責^シ玉ヲ事^一」[◎]尊[◎]积[◎]尊

「禮^上佛^ヲ」[◎]謙[◎]积[◎]尊

54才「女白^ニ仙人^一言^ク」[◎]謙[◎]王

「女先遣^レ信白^レ王」[◎]謙[◎]王

54ウ「女白^レ王^ニ言^ク」[◎]謙[◎]王

55ウ「術婆伽……奉^レ見^ニ國王ノ后^ヲ」[◎]謙[◎]后

「若シモ后ノ御哀^レミヤ蒙^{ルト}テ……后恠^テ其^一故ヲ問^{玉フ}」^④尊后
「シカ^レト申ケレハ」^④謙后

「相^ヒ待^テト約束^シ玉ヒシカハ 術婆伽……魏々堂々^トノ入^{玉フ}待^ニ 術々々^一ヲ……立廻^リ呼^ヒ給ケルニ……金玉ノ御衣ヲ脱^テ懸^ニ 術婆^カ上^ニ空^ク還^リ給^ヌ……術々々目覺^メテ 見^ニ付^テ金玉ノ御衣^一ヲ后^ニ是迄入^給タリケルヲ」^④尊后

59才「諸ノ比丘不^レ知^ラ白^ス佛^ニ」^④謙釈尊

卷九

5才「鄭玄^ト云人刺史^ニナリ玉ケルニ」^④尊鄭玄

7才「昔孔子^ノ領^ニ諸ノ弟子^一ヲ至^玉 楚国^一」^④尊孔子

8才「息^カ曰公^一好^ニ何物^一ヲカ」^④尊晋の献公

「朝官^カ曰……荀息乃^タ上^レ書」^④謙晋の献公

9ウ「大倉之米給^ニ與^シ玉フニ百姓^一」^④尊晋の献公

10才「三公奏^テ曰サケ」^④尊漢の昭帝

10ウ「願^ハ與^ニ玉ヘ臣^ニ九劬^ノ學士^ヲ」^④謙漢の昭帝

12ウ「嵯峨帝御時」^④尊嵯峨天皇

13才「御門御氣色アシクナリテサテハ臣所爲歟^ト被^レ仰ケレハ」^④尊嵯峨天皇

「智臣朝^ニ進^ミカタクヤト申ケレハ」^④謙嵯峨天皇

「御門……書^セ給^テ是讀^メト給^{ハセ}ケリ……御氣色ナヨリニケリトナン」^④尊嵯峨天皇

13ウ「魯仲尼門徒^ヲ具^ル路^ニヲワシケルニ或所ノ垣^{ヨリ}馬ノカシヲ指^シ出^{タル}ヲ見^テ牛^トノ玉ヒケリ」^④尊孔子

14才「言人能勤^ム學則榮貴後自有^ノ良田好宅僕從妻妾之奉也」^④謙真宗皇帝

16才「奉勸^レ讀^ム書人^ニ」^謙

18ウ「古^ノ之聖人^ノ其出^ル人^ニ也遠^シ矣猶^ツ且^ツ從^テ師^ニ而^ソ問^{ヒキ}焉今^ノ之衆人^ハ其^レ去^ニ聖人^一ヲ也」^尊聖人（一般

名詞）

22才「舍利弗白^レ佛^ニ言^ハ」^謙釈尊

24才「章安大師」^尊章安

24ウ「天台大師」^尊智顗

「天台大師」^尊智顗

25ウ「文殊白^レ佛^ニ」^謙釈尊

「佛涅槃^{トテ}後樹無^シ音聲^ニ」^尊釈尊

27才「十萬億^ノ佛刹^一作^{マフ}佛^ニ」^尊釈尊

32ウ「南岳大師無常詞」^尊慧思

33ウ「天台大師四十八箇條起請文」^尊智顗

35才「惠心僧都四十一箇條御詞」^尊源信

「一聖教御前^ニ」^尊

「一奉^ル讀經^一」^謙

36ウ「同先德御語曰」^尊源信

40才「釋迦大師」^尊釈尊

40ウ「發心起請表白……敬^テ白^ニ十方法界不可說不可說^ノ三寶^ノ境界天照太神春日權現等^ノ垂迹和光別^ノ三世覺母^ノ大

聖文殊師利菩薩清涼山中一万眷属等^ニ而言弟子^一」^謙

43ウ「文殊一万眷属哀^ニ愍^ノ弟子^カ愚意^一ヲ令^玉發^ニ真實^ノ道心^一」^尊眷属

44才「行基菩薩臨終遺言」^①行基

44ウ「性空上人御語」^②性空

46ウ「空也上人常言」^③空也

47才「智覺禪師八箇條起請文」^④永明延寿

47ウ「千觀内供八箇條起請」^⑤千觀

48才「覺鑠上人詞」^⑥覺鑠

49才「佛昔在^ニ因位^ニ精進^ノ既^ニ得^レ玉^ヲ火^ヲ我今居^ニ凡地^ニ」^⑦釈尊

52ウ「吾聞^ク聖人^ハ上知^ニ天命^一」^⑧謙聖人（一般名詞）

53ウ「聖人^ハ一食^シ俗人^ハ三食^ス」^⑨聖人（一般名詞）

56才「嵯峨天皇御宇」^⑩嵯峨天皇

58ウ「諸佛幾^カ思^ヒ侘^ヒ給^{ラン}」^⑪諸仏

卷十

2才「六十^ノ比丘悲泣^ノ白^レ佛……」^⑫比丘重^テ白^レ佛」^⑬釈尊

3才「有^ニ二百人^一白^レ佛」^⑭釈尊

3ウ「一^リ外道一聞^下佛經^ニ說中^{玉ヲ}食^ノ人^ノ信施^ヲ後^ニ爲^ニ牛馬^一ト以^テ償^中施主^上」^⑮釈尊

4ウ「父母常在^シ多^ク有^ニ兄弟^一……各各說已^テ廻白^ニ大王^一」^⑯王

「諸王……白^レ佛^ニ」^⑰釈尊

「佛說^ニ八苦^一」^⑱釈尊

9ウ「陛下」^⑲王

10才「帝時御行殿」^①尊王

10ウ「臣等上啓」^①謙王

11才「請^レ說^二玉フト^一法要^二ヲ^一」^①尊僧

17ウ「臣白^レソ王^二」^①謙王

「是父智^二ソ非^二臣カ^一之力^二ニ唯願^{クハ}大王一切國土還聽^レ玉ヘ^一養^レ老^レ王即歎羔心^二生^二喜悅^一奉養臣父^一尊^テ以^テ爲^レ師^一」

^①尊王

18ウ「孔子佛云聖人事」聖人（一般名詞）

18ウ 19才「法苑五十五^二云故史錄太宰嚭問^二孔子^一ニ曰夫子聖人^也與對^テ曰博識強記非^二聖人^一ニ也又問三王聖人^{ナリヤ}與

對曰三王善ク用智勇^一聖ハ非^二丘所^一知^ル又問五帝ハ聖人與對^テ曰五帝善ク用^二仁義^一聖ハ非^二丘所^一知又問三皇

聖人與對^テ曰三皇善用^二時政^一聖ハ非^二丘所^一知^ル知太宰大^ニ駭^一曰然則孰^ニ爲^二聖人^一乎^一（尊聖人（一般名詞）

19才「佛供^二ニ義^二玉ヲ^一法^二ヲ所以^一ノ事^一」^①尊積尊

19ウ「比丘……白^レ佛」^①謙積尊

25ウ「大王不^レ信^ハ所^レ脛^ニ看^レ之^一……大王試^ニ割^テ腹^ヲ看^レ玉ヘ^一之^一」^①尊王

26才「陛下不^レ信割^レ心^ヲ看^レ玉ヘ^一之^一」^①尊王

26ウ「爲^二天子^一」^①尊王

27ウ「又如^二キ阿難^一ノ白^一」^①謙積尊

29才「寶明菩薩白佛言」^①謙積尊

31才「松野殿御書^{ニアリ}」^①謙書物（↓日蓮）

32才「舍衛^ニ有^二九億^一ノ家^一三億^一眼^ニ見^レ佛三億^一耳^ニ聞^テ而不^レ見上三億^一不^レ聞^上不^レ見^上」^①謙積尊

「佛在^二ス^一」^①尊積尊

- 33才「十方世界珍寶奉施法王」^①
 34ウ「佛告^二舍利弗^一」^②「尊^③釈尊」
 36才「百千ノ佛出^{玉ヘトモ}終^ニ不^レ得道^{一セ}」^④「尊^⑤諸仏」
 39才「解脱上人」^⑥「尊^⑦貞慶」
 44ウ「一切ノ如来ノ所^ニ也讚嘆^{一シ玉フ}」^⑧「尊^⑨如来」
 47ウ「佛説^{ヘリ}」^⑩「尊^⑪釈尊」
 48才「如^二世尊ノ説^{一玉カ}」^⑫「尊^⑬釈尊」
 50才「或^ハ是聖人^{ナラン}」^⑭「尊^⑮聖人（一般名詞）」
 51才「右持戒^{ヨリ}已下日道上人御作持念要文^ニ有之^云」^⑯「尊^⑰日道」

三、分析

前項において、約四七〇例の敬語表現箇所を掲出したところ、そのうち約一五〇例は『類雑集』独自の敬語表現と考えられる箇所であった。文脈上「丁寧語」と判断できるものは皆無であり、残りは「謙讓語」が三割程度、「尊敬語」が七割程度であった。これを「敬意の対象」、「尊敬語」、「謙讓語」の項目毎にまとめると、左の表の如くなる。太字で示したのが、人名または一般名詞である。複数の人物が含まれる場合は（ ）内に別記した。「尊敬語」、「謙讓語」の欄にも大項目全体の用例数と、（ ）内に人物毎の用例数を明記した。

『類雑集』独自の敬語表現をパーセンテージに換算すると、五十五%を占めるのが「釈尊」への敬意、ついで多いのが十四%を占める「僧」への敬意、さらに十一%の「日本の神」への敬意がつづき、六%の「諸仏」と、同じく六%の「王」、三%の「特定不可」となる。この「特定不可」の四例中二例は本地垂迹に言及する箇所であり、神か仏か

敬意の対象	尊敬語	謙讓語
釈尊 諸仏 (うち如来) (うち菩薩) 仏弟子 (うち舍利弗) (うち迦葉) 帝釈天 閻魔王 日本の神 王 (うち優填王) 聖徳太子 僧 (僧(一般名詞)) (大師(一般名詞)) (聖人(一般名詞)) (うち智顗) (うち行基) (うち貞慶) (うち日蓮) (うち日隆) (うち日道) 特定不可	八十三例 一〇例 (三例) (二例) 二例 (二例) (二例) 一例 なし 十七例 九例 (二例) 一例 二十一例 (二例) (二例) (二例) (二例) (二例) (二例) (二例) (二例) 四例	三例 なし (なし) (なし) なし (なし) なし 一例 なし なし なし なし なし なし なし なし なし なし なし なし

判断がつかないために「特定不可」としている。その他の項目は、各一％である。比率から作者の敬意の対象を考えたい。唱導書という性質から考えて、「釈尊」に対する敬意が突出しているのは当然である。また、巻五で「神祇門」を立てることから「日本の神」への敬意が強い点も得心がいく。

注目すべきは、「僧」二十一例のなかで九例を占める「日蓮」ではないだろうか。ただし、書名の「御抄」や「引^玉」の用例から日蓮への敬意がうかがえるのみであり、『類雑集』に「日蓮」の名が明示されない点が大きな特徴である。これは、日蓮の著作であることが明らかであるため名前を出す必要がないと判断したのか、憚りがあつて意図的に控えたものかは判断できない。ほかに日蓮宗関係者への敬意は、「日隆」への敬意が三例、「日道」への敬意が一例ある。合計すると、「僧」二十一例中、日蓮宗関係者は十三例と半数を超える。この数字は、牧野氏が指摘する『類雑集』刊行時に日蓮宗関係者が関与していたこと」を表現上からも裏づける証左たり得ないか。また、その他の書名においても、特筆すべき箇所がある。それは、『八雲御抄』の振り仮名である。『八雲御抄』は順徳天皇が著した歌字書であり、「ヤクモミシヨウ」以外の読みは確認できない。ところが、『類雑集』巻八では14ウと15オの二箇所とも「八雲御抄」と振られている。日蓮宗において「御書」を「ゴシヨ」、「御抄」を「ゴシヨウ」と読む慣例を、

『八雲御抄』にも適用した可能性が浮上する。

一斑を見て全豹を卜すことは控えるが、これらのことを『類雑集』の敬語表現の一特質として理解しておきたい。

四、おわりに

『類雑集』研究では、これまで表現の分析はなされていなかった。本稿では「敬語表現」に着目し、一度全ての敬語を抽出したのち、『類雑集』独自の敬語を特定し、さらに敬意の対象や敬語の種類ごとに分類した。これにより、『類雑集』の敬語を概観することが可能となり、およそ四七〇例のうち、尊敬語が七割、謙讓語が三割であること、謙讓語はほぼ出典どおりであり、尊敬語を中心に補記していること、補記は大字にせず送り仮名として振ることが確認できた。また、作者の敬意の対象として、「釈尊」に対する敬意が半数以上を占めること、ついで「僧」、「日本の神」に対する敬意が続くこと、「僧」への敬語二十一例中「日蓮」への敬語が九例を占め、ほかに日蓮宗関係者への敬意が四例あることを了解した。

今後の課題として、今回触れられなかった「上人」「聖人」の使い分けや、題目を敬意と捉えるか否かという問題がある。

『類雑集』において「上人」と「聖人」は混用されている。「上人」が頻出するのは巻十であることから、各話の引用書の表記によったものとも考えられる。名称が一定しない例として、貞慶が挙げられる。巻四では「解脱聖人」であったのが、巻九では敬称もなく「貞慶」とし、さらに巻十では「解脱上人」と表記される。こうした例が意識的な使い分けであるのか、引用元の表記に従ったものであるのか、検討の余地がある。

また、本稿では敬語に含まなかったが、巻八27才〜28才の無常門第三十六話「無常要文事」に題目が見える。この話は、

「大集經云……」「止九云……^文」と各二行ほど經典を引用し、つづけて「先徳云……^文」と約十行にわたって引用したのち、「南無妙法蓮華經^{法界受持衆生}」と題目を記す。この「先徳」が誰を指すのかは現段階では不明であるが、題目を記すことで「先徳」に敬意を表しているとも考えられる。

今回の考察結果は小さな発見の一端であるが、今後の分析と総合して考えるとき、重要な証左となる。『類雑集』の正確かつ詳細な理解のために、今後も「表現」や「引用」など多角的な視点から検討を進め、逐次学界に報告していきたいと考えている。そのうえで、『類雑集』の表現機構に対する総合的見解を提出したい。

註

(1)牧野和夫『中世説話の説話と学問』（和泉書院、一九九一年十二月）。なお、一八〇～一八一頁には、次のようにある。
平安時代から室町末期近世初頭頃に到る各時代の成立の幅広い引書（孫引き等も考慮しなければならない）に基づく輯成である。注目すべきことは、主に小字双行の割注形式を以て示された「法華題目抄」「開目抄」「録外曾合抄」「知謗法論」等の名であり、日蓮の著作類の引用が認められる点である。先に指摘した『類雑集』の刊・写本が日蓮宗内を中心に流伝していたと覚しい事実と符合して、『類雑集』刊行時に日蓮宗関係者が関与していたことは確実となつたのである。

(2)清水宥聖「『言泉集』と『類雑集』」（『国文学踏査』第二十号、大正大学国文学会、二〇〇八年三月）

(3)拙稿「慶安四年版『類雑集』巻六「時節門」出典考——第十七話「十二月ノ異名事」を中心に——」（『国文学試論』第二十五号、大正大学大学院文学研究科国文学研究室、二〇一六年三月）

(4)拙稿『類雑集』における『宝物集』受容」（『国文学試論』第二十六号、大正大学大学院文学研究科国文学研究室、二〇一六年三月）

(5)拙稿『『類雑集』の和歌にみる編纂意識』（『国文学踏査』第二十九号、大正大学国文学会、二〇一八年三月）

- (6) 近世唱導文芸研究会『『類雑集』翻刻「二」』『八』（「大正大学綜合佛教研究所年報」第三十三、第四十号、大正大学綜合佛教研究所、二〇一一年四月～二〇一八年三月）
- (7) 『宝物集』の受容として『類雑集』を挙げる、大島薫「宝物集の生成——享受をめぐる改変の様相——」（「中世文学」第四〇号、一九九五年六月）、『孝子伝』との関連で『類雑集』の書名を挙げる、幼学の会『孝子伝注解』（汲古書院、二〇〇三年二月）、『三社託宣』との関連で言及する八木意知男『『三社託宣』の研究と資料』第四章（京都女子大学研究叢刊四十九、二〇一一年二月）がある。
- (8) 註(6)に挙げた翻刻資料は、現在巻八までの発表であることから使用しなかった。
- (9) 『『類雑集』表現考（二）——注記表現を中心に——』として発表準備中。
- (10) 『『類雑集』引用考』として発表準備中。
- (11) 註(1)と同じ。一八一頁。